

豊後大野市立緒方中学校 学力向上プラン(8月)

学校教育目標	自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成
育成を目指す 資質・能力	論理的な思考力と豊かな表現力・共生力・郷土愛

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	《各種学力調査の分析結果から明らかになった課題》 ・8年生は、全教科とも二極化が見られる。低学力層の底上げを図る必要がある。知識・技能の平均正答率は、国語、英語は目標値とほぼ同レベルだが、社会、数学、理科の思考・判断・表現は目標値との差が大きい。更に主体的に取り組む態度が英語以外目標値を下回っている。 ・9年生は国語、数学、ともに全ての観点で目標値を大きく上回っている。低学力層への個別の支援を充実させたい。	《各種学力調査の分析結果から明らかになった課題》 ・学力の定着に課題のある8年生も、教科の勉強に対する愛好度は、社会科を除き、いずれも県平均を20ポイント以上上回っている。また、授業が分かると回答した生徒の割合も社会を除き、県平均を上回っている。意欲的に取り組もうとする姿は見られるが結果に結びついていない。 ・8年生は9年生に比べて家庭学習の時間が少ない。 ・読書量は少なくないが、内容に偏りが見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考力や表現力を問う問題の正答率は、7年62%、8年47%、9年58%で学年間の差が大きい。 ・低学力層(正答率30%以下)が、7年9%、8年11%、9年5%いる。きめ細かな個別指導が必要。 ・計画的に家庭学習を進めている生徒の割合は、生徒アンケートでは77.1%、教師アンケートでは52.3%であり、生徒・教師間で、目指す家庭学習の姿に差がある。 	
指導 の 状況	1. 組織的な授業改善の取組状況	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科単元指導計画(学習カード)を作成し、生徒と共有することの実施率は、100%であり、質の向上を図りたい。 ・教員はめあてや課題を常に提示しているが、8年生には意識されていない面があり、提示の工夫が必要。 ・生徒が自分の考えを表現できる場を設定して、授業改善に取り組んでいる。 ・授業内容に興味・関心がもてる」と回答した生徒の割合は91.6% 	
	2. その他の学力向上に向けた指導の取組状況	
	<ul style="list-style-type: none"> ・短学活で、家庭学習の計画を立てることに取り組んでいるが、時間を確保ができないことがあった。 ・生徒会学習部が運営する「スタディ・アップ」の内容を改善するなどの助言や支援を行った。 ・家庭と連携し、21時以降のネット・ゲーム禁止の呼びかけをおこなっているが、個別の働きかけが必要。 	

学力に関する達成指標

- ・単元テスト・定期テスト等で低学力層(30点未満)15%以下
- ・生徒の論理的な思考力や表現力を問う問題の正答率が70%以上
- ・授業評価アンケートで「授業の内容に興味・関心がもてる」に肯定的回答の割合、90%以上

